

9.2 学生の受け入れ

【評価項目 5-0-1】 入学者受け入れ方針等（門戸開放）

（必須要素）他大学・大学院の学生に対する「門戸開放」の状況

【評価項目 5-0-2】 学生募集方法、入学者選抜方法

（必須要素）大学院研究科の学生募集の方法、入学者選抜方法の適切性

【評価項目 5-0-3】 入学者選抜の仕組み（学内推薦制度）

（必須要素）成績優秀者等に対する学内推薦制度を採用している大学院研究科における、そうした措置の適切性

【評価項目 5-0-4】 入学者選抜方法の検証

（必須要素）各年の入試問題を検証する仕組みの導入状況

（選択要素）入学者選抜方法の適切性について、学外関係者などから意見聴取を行う仕組みの導入状況

【評価項目 5-0-6】 「飛び入学」

（必須要素）「飛び入学」制度の運用の適切性

【評価項目 5-0-8】 社会人学生の受け入れ

【評価項目 5-0-9】 科目等履修生、聴講生等

（選択要素）科目等履修生、聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性

【評価項目 5-0-10】 外国人留学生の受け入れ

（選択要素）外国人留学生の受け入れ状況

（選択要素）留学生の本国地での大学教育、大学前教育の内容・質の認定の上に立った学生受け入れ・単位認定の適切性

【評価項目 5-0-11】 定員管理

（必須要素）収容定員に対する在籍学生数の比率および学生確保のための措置の適切性

<2003年度に設定した目標>

1. 夜間の授業を実施し、社会人を積極的に受け入れる。
2. 学内外から多様な学生を受け入れる。
3. 社会人に対応した入試制度の充実。

（現状の説明）

1. 入学者受け入れ方針等（門戸開放）

本研究科は言語教育研究センターを基礎とした大学院独立研究科である。入学生は、本学の様々な学部（文学部、社会学部、法学部、経済学部、商学部、理工学部、総合政策学部）からの進学者と7割以上にも及ぶ他大学出身者からなっている。また前期課程については、実務経験が3年以上を対象とした社会人入試を実施し、交通の至便な大阪梅田キャンパスにて、主に社会人学生を対象として夜間の授業を行っており、社会人の受け入れやすい環境をつくっている。また入学者も多様できわめて開放的な研究科である。

2. 学生募集方法、入学者選抜方法

前期課程の学生募集については、毎年3回入学試験を実施し、実務経験が3年以上を対象とした社会人入試も同時に実施している。出願書類として入学願書、成績証明書、研究計画書、課題論文、履歴書（社会人のみ）の提出を求めている。入学試験は、外国語の筆記試験と、口述試験からなっている。筆記試験では以下の条件で試験を免除して

いる。

一般入試では、TOEFL520点（Computer-Basedの場合は190点）、TOEIC700点以上のスコア、英検準1級、仏検準1級、独検2級以上、社会人入試では、TOEFL500点（Computer-Basedの場合は173点）、TOEIC650点以上のスコア、英検準1級、仏研準1級、独研2級以上、あるいは現職英語教員となっている。開設当初から社会人に配慮した入学試験を実施している。

後期課程の学生募集については、年1回入学試験を実施し、その際、入学願書、成績証明書、研究計画書、修士学位論文またはこれに代わる業績とその概要の提出を求めている。試験は、筆記試験（外国語）と口述試験からなっている。

3. 入学者選抜の仕組み（学内推薦制度）

学部卒業見込み者の成績優秀者等に対する学内推薦制度は採用していない。

4. 入学者選抜方法の検証

入試問題は、毎年作成、担当者を変え、前年度の担当者が作成した問題を検証した上で、新年度の問題を作成している。なお、入学者選抜方法の適切性について、学外関係者などから意見聴取を行う仕組みは、まだ導入していない。

5. 「飛び入学」

飛び級制度は導入していない。

6. 科目等履修生、聴講生等

科目等履修生は、他大学院学生、英語教員が主として英語教育関連科目を履修するために申し出るケースが多く、毎年、1、2名を受け入れている。受け入れに当たっては、教務学生委員が面接し、志望動機、外国語運用能力などの用件を審査している。

7. 外国人留学生の受け入れ

外国人留学生については、一般入試または社会人入試を受けることになっている。大学前教育の内容・質の認定は提出された成績証明書と入学試験によって判定している。協定に基づく海外協定校からの教員を特別学生として受け入れている。

8. 定員管理

前期課程については、2003年度前期課程入学者28名、2004年度は24名、2005年度は23名であった。2005年5月1日現在の在籍者数は55名であり、収容定員に対する在籍者数比率は0.92である。後期課程については2003年度前期課程入学者5名、2004年度は7名、2005年度は3名であった。収容定員に対する在籍者数比率は1.56である。

（点検・評価の結果）

1. 前期課程の学生募集方法については、社会人入試を実施しているほか、毎年3回の入学試験の日程を、土曜日に設定し、社会人に対して配慮している。
2. 入学者の選抜については、筆記試験、口述試験、研究計画書などを基に総合的に評価し、適正な選抜がなされている。
3. 定員管理については、後期課程は十分な在籍者数が確保されているが、前期課程については、在籍者数が減少しており、在籍者数の確保に努める必要がある。

(改善の具体的方策)

定員確保のためには、いくつかの方策が考えられるが、まず入試説明会の方法をさらに工夫すると共に広報活動にも重点を置く必要がある。現在、本研究科のカリキュラムは英語中心のカリキュラムとなっているが、今後は、外国人に対する日本語教育プログラムや英語以外の言語（フランス語、ドイツ語、中国語など）のカリキュラムを充実させるなどのカリキュラム改革を行い、入学対象者を広げ、定員を確保する。